

(要領第5の2(1)関係)  
(様式3)個別箇所評価シート

建設部 砂防課

分野	人家に対する地すべり対策急傾斜地崩壊対策		事業番号	11	事業名	地すべり対策					
市町村名	小谷村	ふりがな箇所名	つがいけ 梅池		事業年度 (完了年度は見込み)	H24	年度～	H29	年度		
事業概要	区分	事業内容			事業費(千円)	財源内訳(千円)					
	全体	集水壁工 3箇所、横ボーリング工 L=1,040m、水路工 L=170m			500,000	国庫	その他	県債	一般財源		
	H25年度	地質調査、地すべり観測、機構解析 1式			20,000	10,000		9,000	1,000		
箇所評価	区分	評価項目・指標等	評価			部	評点				
	必要性 (30)	保全対象人家数	■ 10戸以上	□ 1～9戸	□ 0戸未満	B	10				
		保全対象公共施設数	■ 2箇所以上	□ 1箇所	□ なし			5			
		保全対象に災害時要援護者関連施設の有無	□ 重要施設	□ 一般施設	■ なし			0			
		土砂の河川への流入量	■ 10万m3以上	□ 1万～10万m3	□ 1万m3未満			5			
			□ なし					0			
		小計					20				
	重要性 (10)	交通遮断による地域経済などへの影響	■ 大	□ 中	□ 小	A	7				
		防災計画上の位置づけ	■ 位置付けあり	□ 位置付けなし				3			
		小計							10		
	効率性 (10)	費用対効果(B/C)	□ B/C1.5以上	■ B/C1.0以上1.5未満	□ B/C1.0未満	C	2				
		早期発現度	□ 5年未満	■ 5年～10年	□ 10年以上			2			
		代替案の検討	□ あり	■ なし				0			
		小計							4		
	緊急性 (40)	地すべりの動き	■ 顕著な動きがある	□ 軽微な動きがある	□ 動きなし	A	30				
地すべり変状		■ 変状あり	□ 変状なし		10						
小計								40			
計画 熟度 (10)	地元の協力	■ 反対意見なし	□ 反対意見あり		A	5					
	地域からの要望	■ 高い	□ それほど高くない				5				
	小計							10			
費用対効果(B/C)		1.27	評価の合計			A	84				
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地区は、昭和60年頃から地すべりの兆候が見られ、平成12年の融雪期に梅池スキー場及び周辺構造物に顕著な地すべり変状が生じたため、地すべり対策を実施したが、その後、年間数cmの地すべり活動を観測している。									
	地域からの要望経緯	従来より地元から要望がある。									
	事業説明等の経緯	従来から地すべり対策を実施しており、事業説明を重ねている。今後、地元住民の意見を設計に反映していきたい。									
	環境・景観への配慮項目	横ボーリング孔口等、地表に露出するものはふとん管など自然の資材をも用いたもので施工し、環境や景観に馴染むよう配慮する。									
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。									
	特記事項	地すべり区域内にはスキー場施設、下流保全区域には多くの家屋、国道・県道、JR等の交通機関及び発電所など重要な施設が存在しており、土砂流出により下流保全対象に甚大な被害が予想される。									
地域の合意形成	□ 全員賛成		■ 概ね賛成		□ 過半数賛成		□ 動向不明				
部意見	保全対象に甚大な被害が予想され、被害による社会的影響も高い。地元要望も強い箇所であり、早急に対策を行う必要がある。				行政改革課 意見	重要性、緊急性が高い。					